

修復家が語る

真贋の見抜き方

講師 修復家 加賀 優記子

絵の具や筆遣いをつぶさに観察する修復家。修復とはどんな仕事か、講師が実際に体験した様々な修復についてのエピソードをお話しながら、海外や日本の贋作の事例を紹介します。

家庭にある所蔵品の展示、保管、修復処置のアドバイスも行います。どうぞ、所蔵の作品をお持ちください。



〈講師紹介〉かが・ゆきこ

武蔵野美術短期大学油絵学科及び同大学油絵専攻科卒業。1984年渡仏、パリ国立美術大学デッサン科に学ぶ。ドミニク・ラルフェール修復工房にて修復技術を習得。ルーブル美術館専属の修復家クシェジェンスキー氏に師事し、ルーブル美術館絵画修復員として勤務。1992年鎌倉美術修復工房設立。1998年小山敬三賞修復部門受賞。2001年ベルリン国立博物館ラトゲン研究所およびドイツ政府産業化学研究所（BAN）にて「天然、合成樹脂の分析研究」をテーマに研修。IIC（国際文化財化学保存会議会）会員、日本古文化財科学保存会会員。主な修復作品にドラクロワ作 サルダナパールの死（ルーブル美術館）ブリュードン作 キリスト磔刑（ルーブル美術館）ブロンデル作 コングレの間、ルイ16世の間天井画（ルーブル美術館）ドラクロワ作 王の間天井画（ブルボン宮殿・フランス国会議事堂）ミッシェル・デュマ作 布教するサン・ドニ（ノートルダム・ド・クリニャンクール寺院）などがある。